

授業科目名	小 児 看 護 Ⅱ			担当教員	大重 育美、松中 枝理子	
開講年次	3年前期	セメスター	5	時間数(単位数)	30 (1)	
必修選択	必修	授業形態		使用教室		
授業の目的	小児の健康問題を理解し、病院や地域において種々の健康レベルにある子どもと家族への看護方法・技術、健康教育、継続的支援の方法を学ぶ。					
到達目標	1. 小児看護Ⅰで学んだ基礎的知識を踏まえて、対象の特性に応じた看護の視点を説明できる。 2. 小児の看護展開において必要な視点および看護ケアの特性について説明できる。 3. 小児の健康障害を持つ子どもと家族の看護の特性を説明できる。					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	学修課題 (予習・復習)	取組時間	担当者	
1	障害および入院が小児と家族に及ぼす影響と看護：①小児の病気に対する認識過程、②入院時、入院中の看護、③家族の反応と心理理解	講義	演習課題（予習） 次回の演習課題を提示	1時間	大重	
2	看護過程の展開 小児看護に必要な看護技術(1)	講義	事前に演習課題を行い、その内容を予習して講義に備える	1時間	松中	
3	小児看護に必要な看護技術(2)	講義	事前に演習課題を行い、その内容を予習して講義に備える	1時間	松中	
4	急性的経過をたどる健康問題／ 障害と看護	講義	事前に演習課題を行い、その内容を予習して講義に備える	1時間	大重	
5	慢性的経過をたどる健康問題／ 障害と看護	講義	事前に演習課題を行い、その内容を予習して講義に備える	1時間	松中	
6	低出生体重児と家族の看護	講義	事前に演習課題を行い、その内容を予習して講義に備える	1時間	大重	
7	①プレパレーション ②保育器内で生活する低出生体重児の看護（保育器の操作、保育器内でのバイタルサイン測定、オムツ交換など）	演習	演習を振り返り、演習ノートの加筆修正を行う（復習）	1時間	松中 大重	
8	①プレパレーション ②保育器内で生活する低出生体重児の看護（保育器の操作、保育器内でのバイタルサイン測定、オムツ交換など）	演習	演習を振り返り、演習ノートの加筆修正を行う（復習）	1時間	松中 大重	
9	先天的な問題のある小児と家族の看護	講義	事前に演習課題を行い、その内容を予習して講義に備える	1時間	松中	
10	感染予防の必要がある小児と家族の看護	講義	事前に演習課題を行い、その内容を予習して講義に備える	1時間	松中	
11	活動制限を要する小児と家族の看護 手術を受ける小児と家族の看護	講義	事前に演習課題を行い、その内容を予習して講義に備える	1時間	松中	

12	ターミナル期における小児と家族の看護	講義	事前に演習課題を行い、その内容を予習して講義に備える	1時間	大重
13	家庭で療養している慢性疾患のある小児と家族の看護（在宅で医療ケアを必要とする小児と家族の看護）	講義	事前に演習課題を行い、その内容を予習して講義に備える	1時間	大重
14	重症心身障害児と家族の看護	講義	事前に演習課題を行い、その内容を予習して講義に備える	1時間	ゲストスピーカー
15	小児看護Ⅱ全体のまとめ 定期試験を終えてのフィードバック	講義	小児看護Ⅱにおける学習内容の中で理解不十分だった箇所についての整理を行う（復習）	1時間	大重
先行履修科目	2年後期までに履修すべき全ての科目				
テキスト	松尾宣武・濱中喜代：小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護。メヂカルフレンド社，平成25年第5版。				
参考文献	松尾宣武・濱中喜代：小児看護学① 小児看護学概論 小児保健。メヂカルフレンド社，平成25年第5版。（小児看護Ⅰにて使用） 今野美紀 他編集：小児看護技術 改訂第3。南江堂，2016。 荃津智子 編著：発達段階を考えたアセスメントにもとづく小児看護過程。医歯薬出版，2012。 岡田喜篤 監修：新版 重症心身障害療育マニュアル。医歯薬出版，2015。 鈴木康之 他監修：写真でわかる重症心身障害者（児）のケア。インターメディカ，2015。				
メッセージ	本科目は、3年後期の成育看護実習に直結する重要な科目です。講義毎に小テストまたは課題レポートを実施します。数名の学生には課題についてのプレゼンテーションを実施してもらいます。学内演習時には、小児看護に必要な基礎的技術から実践的な技術を習得してもらいます。				
科目の位置づけ	本科目は、小児看護Ⅰで学習した基礎知識を看護実践に発展させる能力を身に着けるために位置づけられている。3年後期に予定される成育看護実習に直結する科目として非常に重要である。				
ディプロマポリシーとの関連	人間の尊厳と権利を擁護する力	自己教育力	チームで働く力	問題解決力	看護の専門性を探究する力
				◎	○
評価方法	定期試験（70%）、授業参加度（10%）、課題（15%）、小テスト（5%）				